

# 作業療法支援☆ワンコインセミナー

特定非営利活動法人 作業療法支援ネット

〒465-0025 愛知県名古屋市名東区上社三丁目 907 番 上社南パークマンション 101

## 助成事業の概要

地域社会においてリハビリテーション医療を十分に受ける事が出来ない可能性のある、いわゆる「リハビリ難民」と呼ばれている人々に、リハビリテーションの情報を届けるため、当事者、関係者、介護職、リハビリテーション医療職者に向けて、最先端知見、技術に関するセミナーを開催いたしました。

作業療法は健康と安寧を促進する療法で、人々が日常生活を主体的に営めるように、人々がしたいと望んでいる、する必要がある、あるいは期待されている諸々の作業の能力を高めることへの支援であり、その内容を広く、分かりやすく、気軽に、参加費 500 円として経済的負担を抑えた形で届けいたしました。

テーマおよび時期は、補助犬・セラピー犬関係（4月、12月、2月）、音楽療法関係（9月、10月、1月）、認知症（5月）、障害受容と社会参加（6月）、ロボットセラピー（7月）、革細工による作業療法（11月）でした。それぞれ配布資料を作りました。

## 事業の成果

1. 障害当事者から出された課題と今後の取組みをご指導できました。

各回、障害当事者の参加があり、それぞれの作業テーマに勇気を出して取り組むことができました。例えば、音楽療法関係セミナーでは、脳卒中後遺症片麻痺の方に、片手でもできるオートハー

プ演奏をご指導できました。40代からの障害以前にはギター奏者でいらしたとのことで、片手での演奏の可能性をとてよるこばれました。講演者の山崎先生よりスカイプを通じて、今後をご指導をつづけたいとの申し出を受けています。

補助犬関係セミナーでは、盲導犬ユーザー様の日常的な補助犬との関わりについて話し合いができました。補助犬ユーザーは、介助動作（歩行、聴覚介助、生活介助）について指導を受けていますが、補助犬としての役割を離れた場、例えば家庭内でのくつろぎでの場の扱い方には指導を受けていません。人と動物との関係性を学ぶことで、今後の生活支援と安心、安寧につながるとの意見をいただきました。

車いすユーザーからは、補助犬の普及を阻む街のバリアフリーのあり方について問題点が提供され、今後の課題として自ら当事者による調査グループを立ち上げました。

ロボットセラピーのセミナーには、重度障害者本人とご家族が参加し、生活の豊かさへの可能性について話し合いができました。その後の別セミナーなど、積極的な社会参加へ繋がりました。

2. 養護学校および地域活動での作業療法を啓蒙、振興することができました。

養護学校教諭で作業療法士でもある方は、簡単な作業（ここでは革細工）が子供たちとの教育的関係構築に利用できることを改めて確認してくれました。

地域活動として音楽を展開しているプロの方は医療・福祉の観点について学び、日頃の活動に早

速とりいれてくれました。福祉専門学校への入学を今春、果たした方もいます。

3. 報告書としてセミナーの具体的内容をまとめ、福祉医療だけでなく、一般市民の皆様にもお役にたてるようにしました。

## 成果の広報・公表

1. 報告書を作り、希望者へ配布します。

報告書Ⅰとして「作業療法としての補助犬、動物介在療法」、報告書Ⅱとして「作業療法としての音楽療法」、報告書Ⅲとして「自宅でできる認知症の作業療法、障害受容と社会参加、コミュニケーション向上のためのロボットセラピー、革細工と作業療法」をまとめ、一般市民、関係団体への作業療法支援のため配布いたします。

2. 特定非営利活動法人作業療法支援ネットのホームページに掲載し、誰でも閲覧できるようにします。

当特定非営利活動法人のホームページは、「情報のバリアフリー」を卒業研究のテーマにした日本福祉大学健康科学部福祉工学科の学生（指導教官、渡邊崇史先生）の協力を得て作られました。誰でも簡単に閲覧できるように工夫されています。

3. 特定非営利活動法人作業療法支援ネットで出している無料情報誌「マイ♡リハ」に読者の生活にお役に立つ記事として、随時、掲載します。

4. 報告会を開催します。

## 今後の展開

未だに作業療法の理解、普及は進んでいないことを実感しています。

その背景としてまず「健康」概念の誤解があります。「疾病や障害がないことではなく、身体的、精神的、社会的に良い状態である（WHO, 1946）」という健康の定義は72年が過ぎた今でも日本には普及していません。作業療法に関する健康や福祉事業への助成申請において、「作業療法は健康事業に関係ない」と言った却下理由が述べられてきています。リハビリは福祉ではないとの指摘も、厚労省での知識人の方から寄せられました。WHOの健康政策に関する方針（ヘルスプロモーションに関するオタワ憲章、1986）の内容はすべて作業療法と深い関係があります。オタワ憲章では未来に向けた展開として「健康は、人々が学び、働き、遊び、愛しあう日常生活の中で、人々によって創造され、実現される」と記載されています。これを今後も地道に啓蒙、実行していきます。

セミナーは、平成30年度助成を受けることができませんでしたが、今回の助成により連携が確認できた個人、団体の協力を得て、できる範囲で継続していきます。